

グリーンテックス株式会社 佐藤一彦社長 コメント

私(同行社員1名)が訪ねた寧波(NINGBO)は、上海の南へ湾対岸に位置しており、人口600万人。2010年の万国博までに上海と寧波に世界一長い海上橋を架けている最中です。

今回の目的は、当社と業務提携が進んでいる、現地の「三好有機肥料」の案内で、害虫忌避効果をもつという椿油粕の搾油工場、及び肥料ペレット工場視察と5年でだめになってしまうブロッコリー畑の土壤改良です。

108万㎡ある畑の土は、青粘土そのもので、15～20cm下層は、硬度27以上と思われる硬い層になっていました。農薬や化学肥料は、日本の商社が指導しているようです。三好有機肥料のスタッフに食味を尋ねると「とても恐くて食べられません。」とっておりました。このブロッコリーは、日本に輸出されております。

あらかじめ、堆肥を準備しておくようにと伝えておいたところ、「中国では、堆肥がうまくできない、腐ってしまう。」と返答がきました。ひょっとすると、家畜に抗生物質がと推測してしまいます。畑地の改良は、堆肥の代わりにブロッコリーの残さを使用し、事前に送っておいた土アップと魚アミノ酸などで改良してきました。

経過はメールで送ってもらうようになっています。7～8月までには結果がわかるでしょう。



(2006年2月17日(金)付け 北海道新聞 掲載記事)

旭川の緑化工事会社 中国で土壌再生

2月下旬農地乾燥の対策実験

【旭川】緑化工事のグリーンテックス(旭川、佐藤一彦社長)は、中国浙江省寧波市の有機肥料工場の要請で2月下旬から、荒地化した寧波市周辺の農場の土壌再生実証実験に乗り出す。すでに同社はこの有機肥料工場の製品を使った芝生の虫害予防実験に道内で取り組んでおり、“土”をテーマとした技術提携に結びつく可能性もある。

有機肥料工場は寧波市に本社を置く三好グループ(年商15億円)の傘下企業。グリーンテックスは独自開発の土壌改良材を使った火山灰地緑化や土壌成分の解析で実績がある。

同社のホームページを三好が目にしたのがきっかけで2003年から交流が始まった。

これまでに三好側は芝生の根を食害するコガネムシの幼虫の発生抑止効果があるペレット状のつばき油かす肥料を提案した。

グリーンテックスは昨年から3年間の予定で、旭川や千歳のパークゴルフ場など道内9カ所で効果について確認作業を行っている。

三好によると、寧波市周辺はブロッコリーやい草の産地だが、5年ほどで土壌が乾燥し、栽培できなくなるケースが多発している。佐藤社長らは22日から5日間の日程で同市を訪れ、土壌の分析法を伝授。併せて、周辺の農場5カ所で実際に改良剤を散布し、自社技術の有効性を調べる予定だ。

佐藤社長は「荒地化は肥料の過剰投与による濃度障害だと思うが、食の安全のためにも自社技術を中国で生かしたい」と話している。

(2006年3月1日(水)付け 北海道建設新聞 掲載記事)

中国浙江省の農地で土壌改良 - 緑化工事のグリーンテックス -

緑化工事のグリーンテックス(本社・旭川)が、中国浙江省寧波市で収量が思わしくない農地の土壌改良を行い、成果が期待されている。業務提携の関係にある現地の三好有機肥料工場が要請し、国外に初めて技術を提供した。

2月25日までの4日間、グリーンテックスの佐藤一彦社長らが現地に渡り、依頼されたブロッコリー畑を土壌分析した。

農地は108万平方メートルに上るが、土が粘土質な上、「カルシウムやマグネシウム分が異常に高く、典型的な肥料の過飽和状態」(佐藤社長)と診断した。収穫期のブロッコリーは葉が萎縮し、根の成長も弱く収量は落ち込みをみせていた。

農地を管理する営農集団と一緒に農地の一部を掘り返し、診断結果をもとに同社の堆肥化促進剤「土アップ」やアミノ酸、農作物残さを混ぜ合わせ、土壌を改良した。

今回農地改良を試みた寧波市は、近くの上海市などと巨大な三角州を形成し、粘土質の地盤が広がっている。佐藤社長は「収量が下がるたびに農薬をばらまき、悪循環による土壌汚染が進行した」とみている。

土壌改良の効果を確認し次第、営農集団が地元自治体に報告し、農地全体で本格的な土壌改良が見込まれている。農地は来年にも2倍の大きさになるという。

業務提携している三好有機肥料工場は、三好グループ(年商15億円、従業員650人)の子会社で、佐藤社長はアドバイザーを務めている。

両社は3年前にインターネットを通じて知り合った。道北の河川堤防などコガネムシの幼虫が大量発生し、カラスが芝生をほじくり返す被害が続出、駆除方法を模索していたところ、同工場が虫の繁殖を防ぐ有機肥料の提供を申し出た。

昨年には同工場の社員が来日し、旭川市内でビニールハウス農家の改良成果を見て、中国への進出を打診していた。

同工場の有機肥料はつばき油かすとニームかすで、今年は5トンが無償提供する。グリーンテックスではモニター希望の行政機関を募り、今年中に効果を見極める意向だ。

佐藤社長は「相互の業務提携が深まれば、両国で有機栽培や環境保全への関心が高まるきっかけになるのでは」と期待を膨らませている。